寫眞週報

情報局編輯

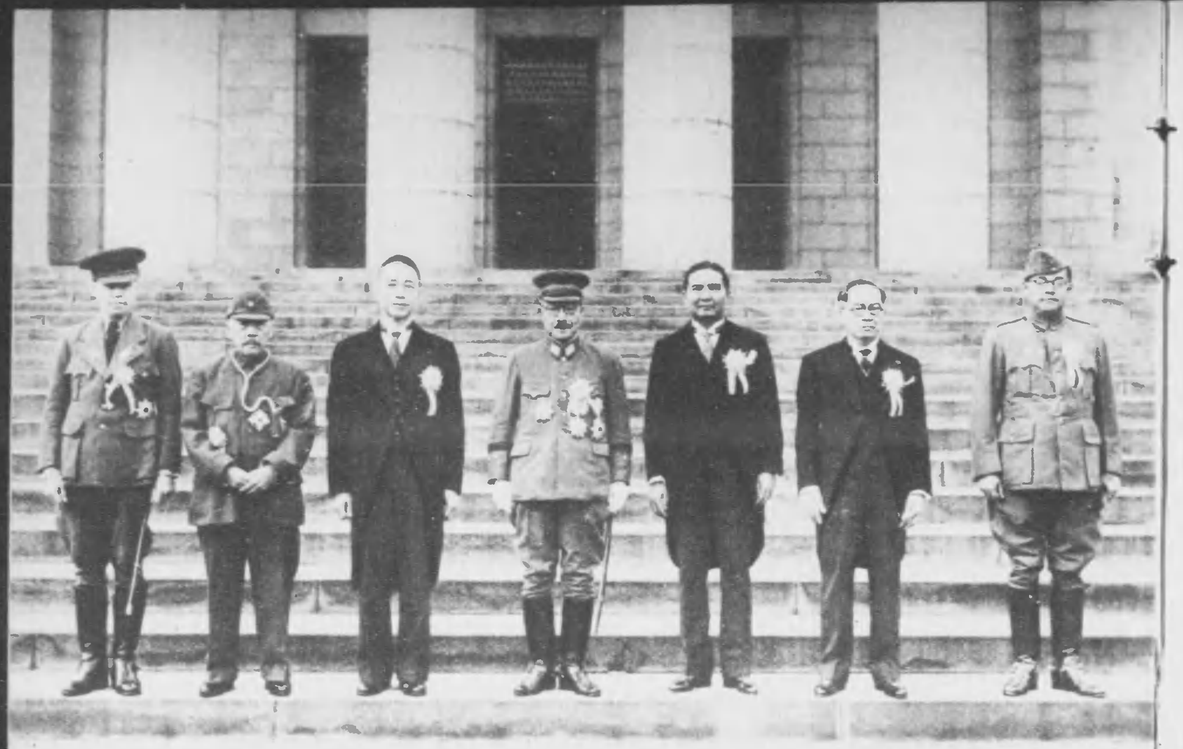
十一月十七日第二百九十八號・十七ン

昭和十一年二月十二日第三種郵便物認可　昭和十八年十一月十七日發行（毎週一回水曜日發行）　第二百九十八號

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

こゝに見たりみのあかし
大いなる國うごく
戰ひのさなかにありて
今ぞおこる
澎湃と昂まりおこる
大いなるアジアの聲を
さなりその聲
アジア十億の雄叫びとなり
轟然と米英の耳朶をうつ
今にして彼等知るべし
こぞりたつアジアの力を

「時の立札」は他一般記事その他に關係なく



大東亞會議にあてられた帝國議事堂に臨める參加國國旗（右からビルマ國國旗、滿洲國國旗、中華民國國旗、日章旗、タイ國國旗、フィリピン國國旗）

アジア十億の戰力結集
大東亞會議開く

大東亞共同宣言

抑〻世界各國が各〻其の所を得、相倚り相扶けて萬邦共榮の樂を偕にするは世界平和確立の根本要義なり。然るに米英は自國の繁榮の爲には他國家、他民族を抑壓し、特に大東亞に對しては飽くなき侵略搾取を行ひ、大東亞隷屬化の野望を逞しうし、遂には大東亞の安定を根柢より覆さんとせり。大東亞戰爭の原因ことに存す。大東亞各國は相提携して大東亞戰爭を完遂し、大東亞を米英の桎梏より解放して、其の自存自衛を全うし、左の綱領に基き大東亞を建設し、以て世界平和の確立に寄與せんことを期す

一、大東亞各國は協同して大東亞の安定を確保し、道義に基く共存共榮の秩序を建設す

一、大東亞各國は相互に自主獨立を尊重し互助敦睦の實を擧げ、大東亞の親和を確立す

一、大東亞各國は相互に其の傳統を尊重し、各〻民族の創造性を伸暢し、大東亞の文化を昂揚す

一、大東亞各國は互惠の下緊密に提携し、其の經濟發展を圖り、大東亞の繁榮を增進す

一、大東亞各國は萬邦との交誼を篤うし、人種的差別を撤廢し、普く文化を交流し、進んで資源を開放し以て世界の進運に貢獻す

東亞、否、世界の歷史に不滅の一頁を飾る大東亞會議の燦たる成果については、今さら多言を要しない。東亞一體の醇乎たる衆は、今や眼前に顯現せられ、しかも十億民衆の共同意志を大東亞戰爭完遂、大東亞建設必成の一點に結集し、以て世界平和の確立に寄與せんとする大東亞總蹶起、堂々の進軍は既に開始されたのである

十一月六日、會議第二日に發表された大東亞共同宣言は、東亞の戰爭目的と平和建設の理念を、剰すところなく世界に闡明した。東亞の創は、たゞ大東亞を隷屬化せんとする米英の非望を撃つのみであり、大東亞の建設は世界進運への貢獻を念願とする東亞はこの偉大なる意志を、實踐によつて、米英に思ひ知らせるのみである

（中央）日本國代表　內閣總理大臣　東條英機閣下（左へ）中華民國代表　國民政府行政院院長　汪精衛閣下　滿洲國代表　國務總理大臣　張景惠閣下　ビルマ國代表　內閣總理大臣　ウー・バー・モウ閣下　（東條總理から右へ）タイ國代表　內閣總理大臣代理　ワンワイタヤコン殿下　フィリピン國代表　大統領　ホセ・ペ・ラウレル閣下　陪席者　自由印度假政府首班　スバス・チャンドラ・ボース閣下

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大東亞會議開く
アジア十億の戰力結集

十一月五日午前九時五十分大東亞會議の幕は切つて落さる　滿場一致の推薦に依つて東條總理が議長席に着席　歷史的な開會を宣し直ちに議事に入り說眞の表代國帝條東づま顯野るよに順ハロイ國加參

アジアの億十力結集戰

大東亞會議開く

東條總理と ワンワイタヤコン殿下 宿舍 下 殿爵侯田前邸に宿舍

東條總理と 汪兆銘閣下 宿舍 長官院立法 邸別特氏崎岩舊

東條總理と ホセ・ヘ・ラウレル閣下 宿舍 山藤氏邸に宿舍

東條總理と ラウレル大統領 宿舍 山藤氏邸に宿舍

東條總理と バー・モウ閣下 宿舍 井樫氏邸に宿舍

東條總理と スバス・チャンドラ・ボース首班 宿舍 官臣大理總に宿舍

アジアは一つ仲よく力を合せて

右から張國務總理、青木大東亞大臣、汪行政院院長

右からワンワイタヤコン殿下、來栖大使、ラウレル大統領

右から重光外務大臣、バー・モウ總理大臣、ホース首班

張景惠閣下

明治五年寒天者寒安縣に生る。奉天講武堂卒業。昭和七年滿洲建國と同時に參議府議長に就任、更に東省特別區長官兼軍政部總長に任ぜらる。帝政實施と共に軍政部大臣兼參議府議長となる。昭和十年國務總理拝命の後、大命を拜して國務總理大臣に就任。滿一位、將軍陸軍上將で、各國代表中の最年長者である。

汪精衛閣下

明治十七年廣東省番禺縣に生る。名は兆銘、精衛は號である。十九歳の時、その英才を認められて廣東省政府から留學を命ぜられ、わが法政大學に學ぶ。歸國民政府時代は行政院副院長兼外交部長、現在は國民政府主席兼行政院院長、事事委員會委員長、中央軍部總裁、中央政治會議主席を兼ねてゐる。

ワンワイタヤコン殿下

明治二十四年生。佛國に學び、大正六年在佛公使館二等書記官、同八年外務省參事、同九年總理大臣秘書官に任ぜられ、昭和四年外務次官、同六年枢密顧問官に任ぜらる。この間、各種國際會議に出席し、殊に昭和十六年、東京平和會議には首席全權として來朝、本年十月十五日、一等皇族に昇格す。本邦勳一等旭日章を有してゐる。

ホセ・ヘ・ラウレル閣下

バタンガス州タナワンに生る。年齢五十二歳。大正四年フィリピン大學を卒業、同年辯護士試驗に合格、辯護士を開業す。最高法院辯護士主任判事を經て、昭和十七年フィリピン行政府最高法院主任判事を經任、昭和十七年、フィリピン行政府最高法院長官に任ぜられ、後、內務長官に轉ず。その後、日本軍政府成立と共に司法長官に任ぜられ、後、內務長官に轉ず。その後フィリピン獨立準備委員會委員長、次いで獨立と共に大統領に就任。

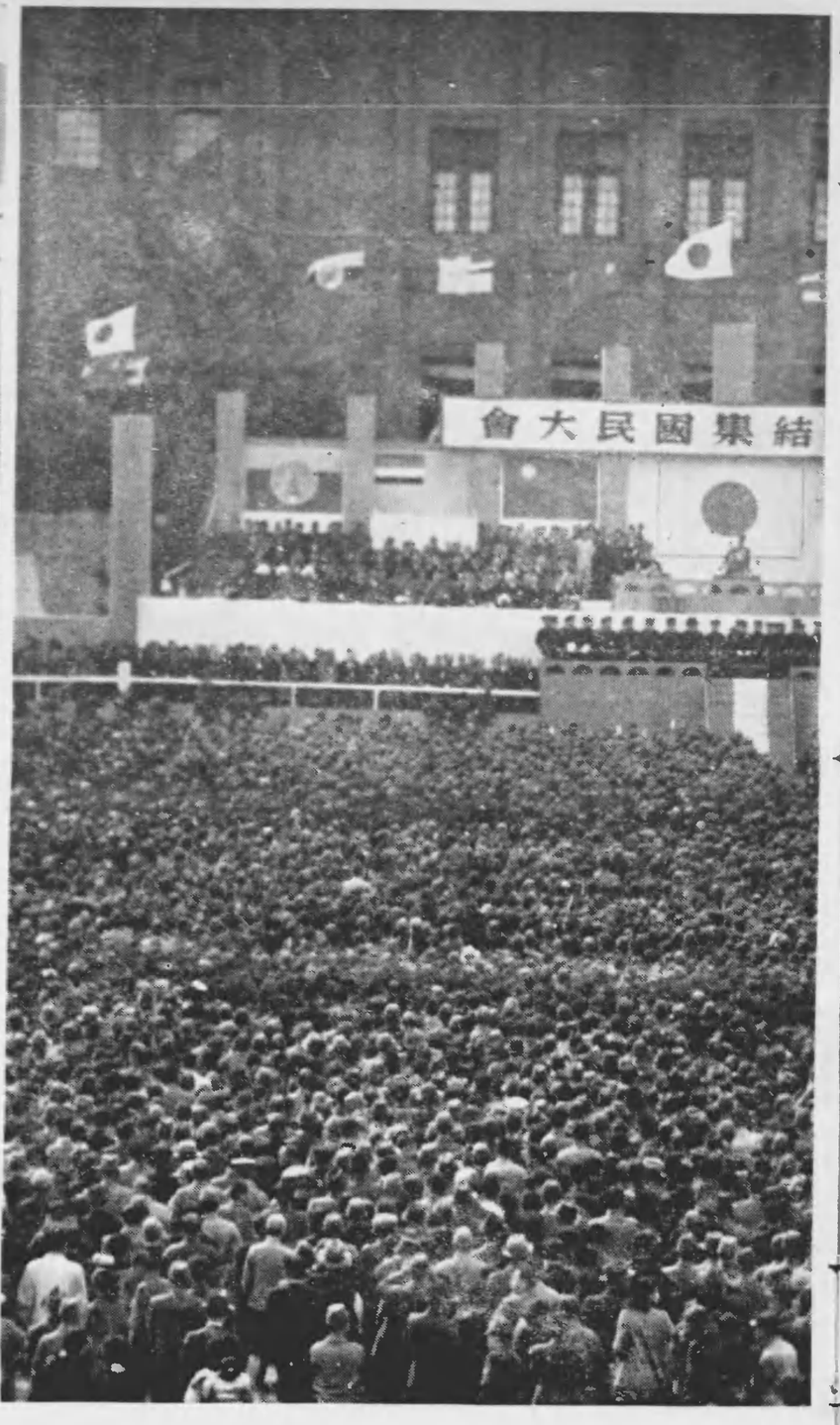
ウー・バー・モウ閣下

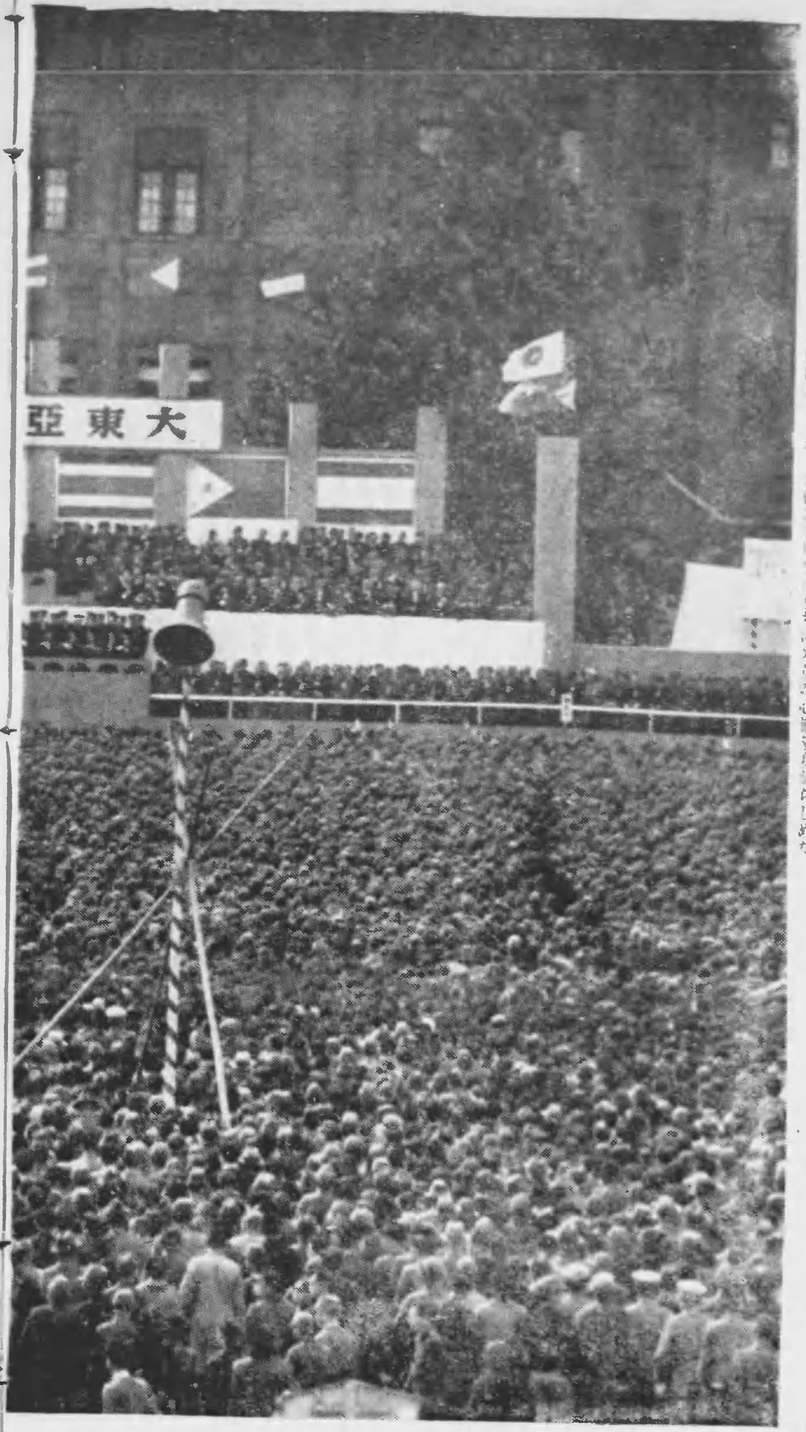
明治二十六年マウビンに生る。ケンブリッヂ大學、ボルドウ大學に學び、大學より哲學博士の學位をうく。ビルマ歸國後、辯護士を開業。昭和九年文部長官、同十二年印緬分離後最初の內閣を組織して總理大臣、同十四年ビルマ自由聯盟を結成す。ビルマ行政府成立と共に行政府長官、現在は國家代表並びに內閣總理大臣。

スバス・チャンドラ・ボース閣下

明治三十年カルカッタ近傍に生る。カルカッタ大學及びケンブリッヂ大學卒業。大正十年インド國民會議派に加入後、反英獨立の半生を貫く。その間、カルカッタ市會議長、同市長等にも選出され、殊に昭和十三年、同十四年には再度にわたつてインド國民會議派議長に就任、現在自由印度假政府首班、インド國民軍最高指揮官

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/





烈々火を吐く 大東亞結集國民大會場

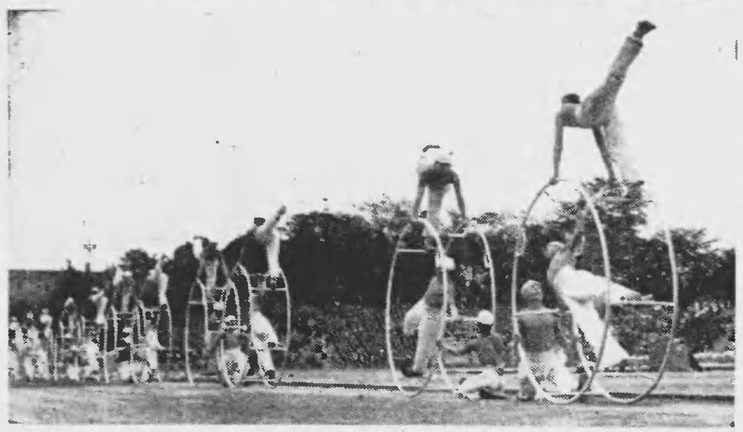
大東亞戰爭が世紀の幕を開いた昭和十一月七日、一億國民が更に興亞の大業完遂の決意を固める大東亞結集國民大會が、開花兼ねて期待の日比谷公園大廣場に十万民衆の參加をみて、本會場の盛儀裡に擧行された。皇軍への感謝決議、次いで東條總理の總決戰完遂決意を中外に聞明、大東亞戰爭完遂決議を滿場一致可決の後、各國代表それ〳〵烈々の挨拶を試み、かくて一億、否、十億の米英の心胆を寒からしめた

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アッと見たり 大東亜次勝の力と闘魂

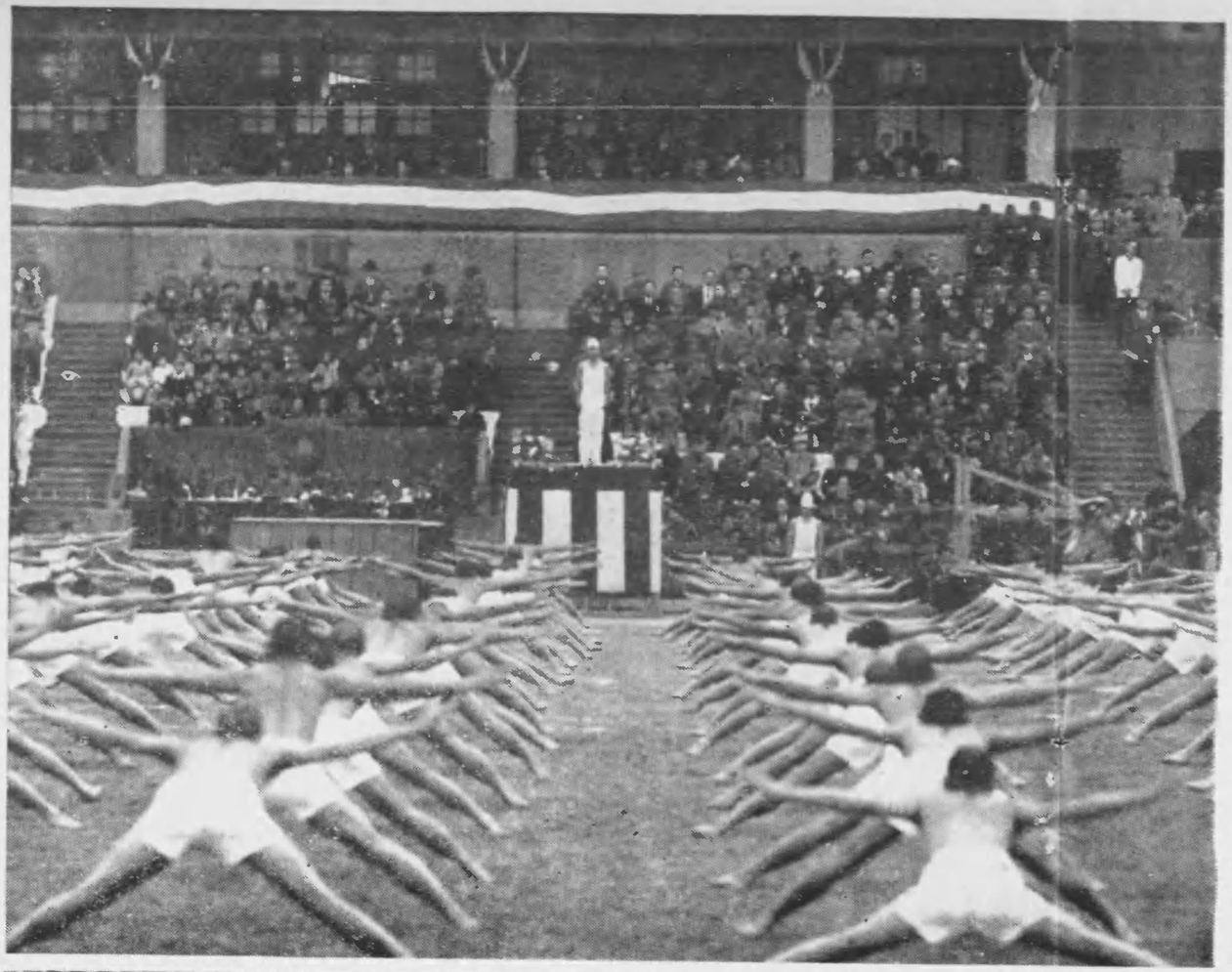
第十四回明治神宮國民錬成大會

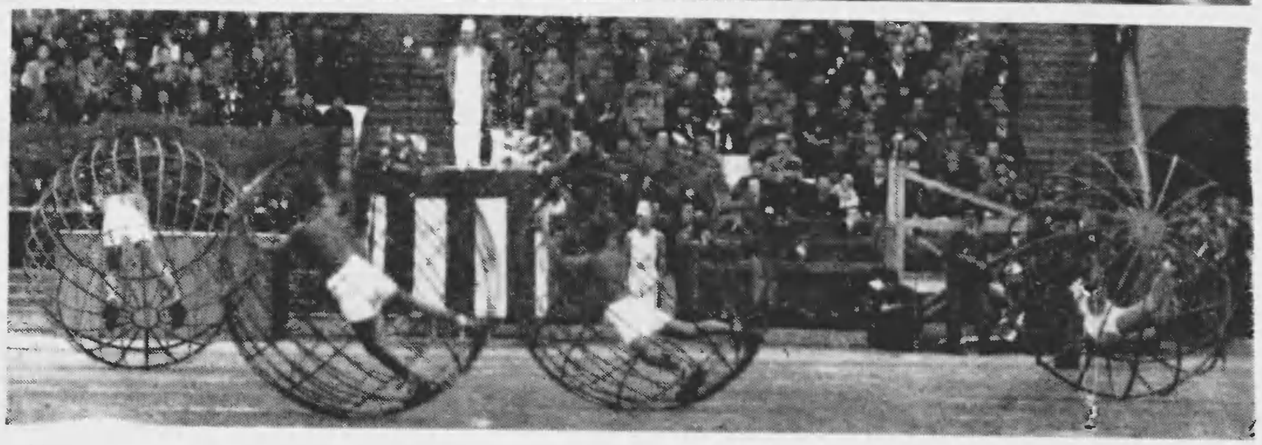
⇦『五十キロ油脂焼夷弾落下傘投下訓練』落下傘にぶら下がり、降りてきた訓練生が、火を噴く模擬弾を足で踏み消しているところ



『逆さまに入る訓練』陸軍少年飛行兵學校生徒の特殊訓練。空襲下の処置として、合唱に始まり、入校後七ヶ月のほの濃さと思へない 下右

『空襲さはがしない空戦に備へ、土浦海軍航空隊で特に考案された操縦器。中の訓練は思ひのまゝに動かしてゆく 下左





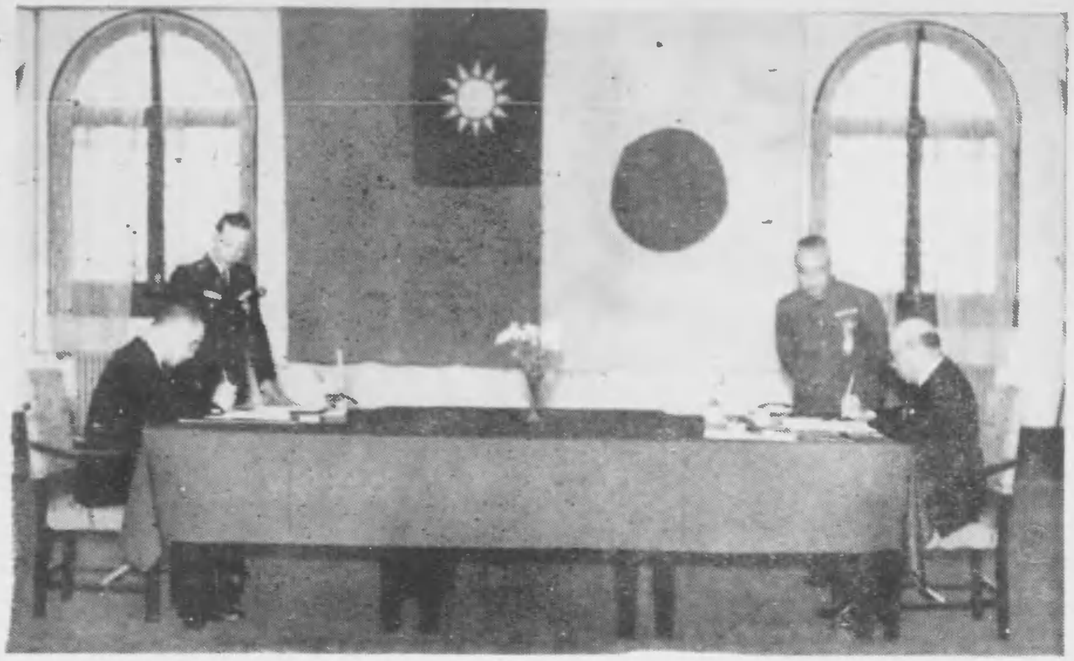
最近も高松總裁宮殿下の御台臨を仰いで開催された第十四回明治神宮國民錬成大會は、國民大會を終へた東條總理並に各國代表、海軍軍事參議官、國務各大臣、ワンワイ殿下、張國務總理、レクト比島大統領、バー・モウ首相、ラウレル・ボース首班を迎へて、大東亜宣言をことほぎ、さらにまた輝かしき大東亜民族の戰意を示す決戰教育の大典を展開した

秋冷の神域にくろがねの肌逞しく傳統の海軍體操を實施する土浦海軍航空隊飛行豫科練習生、實包を裝塡した陸軍白山學校の銃劍術、輝く勲章に見入つた各國代表は、最後の日本、中國、タイ、滿洲、比島、ビルマ、佛印、インド、ジャワ、マライ、スマトラ、セレベス、ボルネオの大東亜各地青年の合同體操に、伸びゆく大東亜の未來を思ひ、アジアは一つの火の玉となつて敵撃滅へ突進せんと誓つたであらう

『僕はこんなに嬉しくなりました』代表を前にして心に叫ぶ。明日の大東亜を擔ふ各地からの留學生一百名は一つとなつてこの合同體操に

高松總裁宮殿下の御前に海の精鋭が展開する日月金金の日ごろの錬成

費賣部の各國代表は大感激もかくてこそと感歎する



撮影　同盟通信社

⇧歴史的日華同盟條約調印式（右から谷駐華大使、汪南京政府行政院長）

⇦久振りの南京入城を後に新中國建設と米英撃滅を鞭撻する汪主席

盛りよる民衆の歓喜に、歩武堂々の行進曲につつて——

撮影　北支那方面軍報道部

へ現實想理の國肇がわ

日華同盟條約調印さる

日華兩國間を永遠の平和と友好でむすぶ信義の日華同盟條約は十月三十日、南京において汪精衛大使並びに國民政府汪行政院院長との間に、歴史的な署名調印をとつた

これまで日本は新中國の建設にあらゆる援助と努力とをつくしてきたのであるが、今や中國はこれに應えて、日本と共に大東亞戰爭を完遂し、東亞の安定を確保するために、日本と同盟條約を締結するに至つたのである。

日本と今日の姿を得ることは、日本本來の願ひであつた。それは支那事變の最中に、昭和十三年十二月、當時の近衛首相が施政の根本方針として、また第七十四回の帝國議會において、支那が本來の姿にかえされるにあると聲明したことによつても明らかに實現されてゐる大東亞戰爭勃發してから僅か半歳にして、米英の勢力が大東亞から一掃されるや、建國いまだ日淺い新生中國は、日本のこの理想を理解し、同生共死の覺悟を以て帝國と東亞新秩序の建設に協力せんため、米英に宣戰するに至つた。日本はまた中國のこの決心に應じんがため、本年一月、租界返還および治外法權撤廢等に關する協定を締結したのであるが、さらに兩國間の關係を更に緊密ならしむるため、昭和十五年十一月に兩國間に締結された諸條約に根本的な檢討を加へた結果、ここに今回の新日華同盟條約を締結するに至つたのである。即ち、今までの日華間の條約はこの條約のために一應的な條約であつたといへよう。そして觀點をかへていへば、日本は新しい血を以て中國と結ばれる生命を吹つたものといへるのである

日華同盟條約の要旨は

一、日華兩國は兩國間に永久に善隣友好を維持するため、相互にその主權及び領土を尊重し、相互援助の手段を講ずること

一、日華兩國は大東亞の建設及び安定確保のため、相互に緊密に協力し、あらゆる援助をなすこと

一、日華兩國と互惠を基調として、兩國間の緊密なる經濟提携を行ふこと

一、また附屬議定書として

一、日本は兩國間の公正な平和克復し戰爭狀態終了したるときは、中華民國領土内に派遣されてゐる日本軍隊を撤去すること

等である

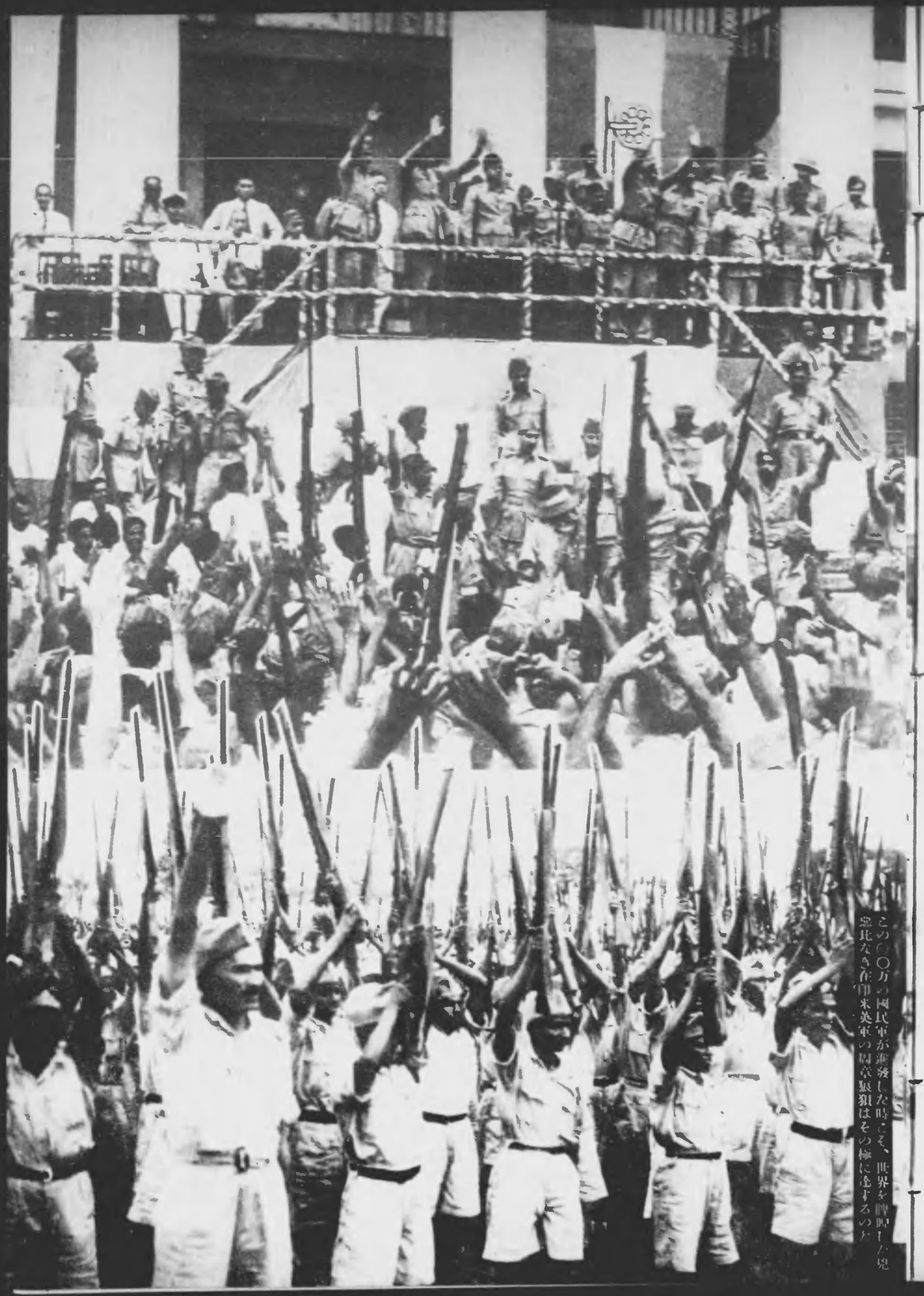
この條約において注目しなければならないことは、それが今までの米英流の『條約』とは根本の考へ方において全く相違してゐるといふことである。即ち、その條文の中には強者が弱者を壓迫する如き條文や、取引的とりきめがどこにもないといふことである。いはば從來のさうした條約を破る條約であることである。即ち、その條約本文中においては、兩國が永遠に睦み合つてゆくこと、お互の主權と領土とを尊重すること、お互に經濟の提携をなすこと等を決め、附屬文には、以前とりきめた駐兵の權利を放棄することを約束して、この戰爭が終つたときには、今日支那にある日本の兵隊を悉く引揚げるといふことまでを決め合つたのである

今までかくの如く相手國を尊重した條約が、嘗て世界のいづこに存在してゐたであらう。しかし、こゝにこそ日本の偉大なる肇國の理想に基づく道義政策の眞面目があるのである

「萬邦をして各、その所を得しむる」といふこの大理想は、日本の肇國とともにあつた。日清、日露またこの理想の實現に向つてなされた聖戰ひこそすぎない。しかして今度の大東亞戰爭ほどこの理想が現實に偉大なる光彩を放けたものはない。これがついに實現されたところに、ビルマ、フィリピンの獨立があり、南方民族の政治參與があつたのである。殊に新生中國が、今日の輝かしき姿を得たのも、この大理想の大きな顯現であつた

今やこの大精神にのつとる東亞解放は成つた。日本は更にこの榮光を確乎たらしむるため、今や激烈なる戰ひを續けてゐる。新中國の指導者として正義に生きる日本に信頼をおいてゐるが故に、今日までの日本の態度に感激し、日本と同生共死、民生を向上してゆくまで聖戰を戰ひぬかんとしてゐるのである

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



この一〇万の國民軍が進發した時こそ、世界を驚嘆した兇悪比なき在印米英軍の暴虐蹂躙はその極に達するのだ

⇦行くゼリーに待ちこがれし同胞よ…ボース最高指揮官に忠誠を誓う將兵に殘れイギリスに與えよ血と火と燃える

⇨一人々々がラクシミバイ女王（インドのジャンヌ・ダルク）とならう…ボース最高指揮官の閲兵を受けて婦人軍のラニ・オブ・ジャシン隊員の士氣はあがる

東亞二百万の人ドンイ 總員武力蹶起へ

ボース最高指揮官インド國民軍を閲兵

十月二十一日の自由印度假政府樹立につづいて、スバス・チャンドラ・ボース國民軍最高指揮官は、インド國民軍ならびに婦人部隊の閲兵を行ひ、間近いデリー進撃に備へる東亞二百万インド人の總員蹶起を中外に宣した

今春六月、ボース最高指揮官が祖國奪回を叫んで起つや、英國はインド軍總司令官ウェーヴェルをインド總督に起用して、奥の手たる武力彈壓を強行しようとしてゐる。現に國民軍結成の報道がインド國内に傳はることをおそれ、インド兵のラジオ聽取を禁止し、また暴動を警戒して動務中以外は武器の使用を禁止してゐる。この氣狂ひじみた彈壓にもかゝはらず、インド兵の叛亂は相次ぎ、なかでもボース最高指揮官の門下であるベンガル人のコングレト黨は『自由インド國民軍前衛基地』と稱して、全インド人に呼びかけ蹶起を促し、着々效果を收めつゝある。敵側でさへ、インド人中厚英獨立を希望する者八割二分、また日本に好意を示す者五割と、インド兵の動搖を告白してゐるほどだ

〇〇万の武器を持ち、すでに訓練されたインド國民軍が國境を突破して祖國に入つた時こそ、待ちかまうけた同胞は起ち、英軍麾下のインド人部隊もまた叛旗を飜して合流すべきことは明らかである。『武器をとれ、しかして敵を撃て』を合言葉とする國民軍に、東亞の同胞としてわれらも心からの支援を送らう

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヤスリをリズミカルに動かす手許に集中する二女常子さん

旋盤と取組んで取敢ず三女貴美子さん

タガネを使ふ三男光之助さん

二男清君の金槌が軽かい調子で釘を打つのをぢっと見守るお父さん

いじまさずは氣意のさん姉俊男長てつきりはに巻鉢ふ向

てつ煮を腕の練老もさ吉長の揮指頭

子寶一家の總力集めて

庭家子多頁優く輝に彰表

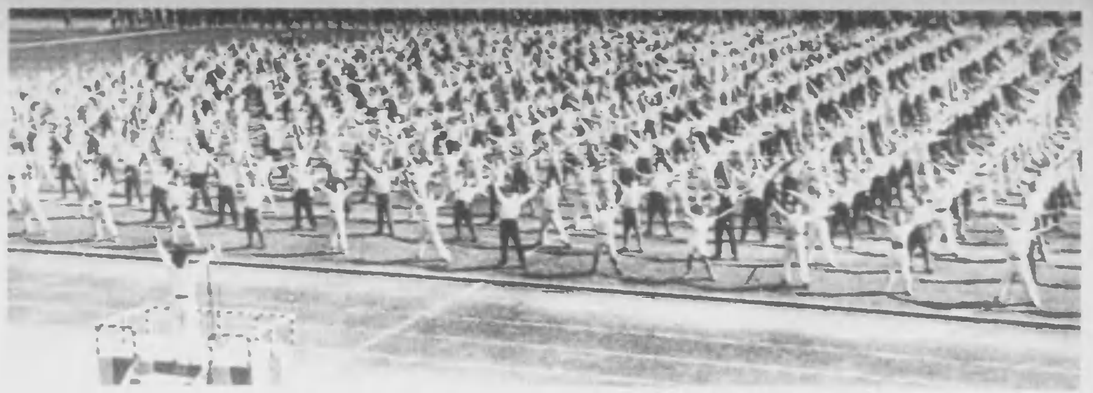
『浦子ちゃん』『十一よ』『正香君』『十三です』『健造君』『十五歳です』『貴美子さん』『十八よ』『富士子さん』『二十三ですわ』『光之助さん』『二十一歳、十二月には入営いたします』『清さん』『二十八です』『俊雄さん』『三十一です』『美枝子さん』『二十六でございます』

『ホヽウ随分お見事ですね』『いや、われながらよく育てゝきたと思ひますよ』何の屈託もなささうに爆笑するお父さんの長吉さんに合槌をうつてほゝゑむお母さんのこうさん。これが子寶部隊角田さん一家の點呼狀況です

一人でも多ければ多いだけ戰力となり、敵撃滅の力となる決戰下、人口戰の殊勳甲として今年も一千九十七の子寶家庭が榮えの表彰に輝き、皇國悠久の繁榮を約する國本培養の力の頼もしさを感じさせてゐますが、十二人の子寶部隊を擁しその總力を結集して、家庭軍需工場の意氣で航空機工具の増産に敢闘する東京都品川區大井鮫洲町の角田さん一家、お父さんを陣頭に、タガネを打ち、旋盤を操作し、ヤスリを使ひ、和氣滿々と増産に精だす子寶たちの姿こそ、この戰ひを戰ひぬくために我が國すべての家庭に求めたい姿です。『生むのだ、殖やすのだ、子寶を』そこに我が國永遠の發展の基があるのです

⇧朝六時がなると一家總出のラヂオ體操だ

⇦スクラと勇揃ひした角田さん一家



⇧福岡市大名國民學校兒童の相撲體操
撮影　西部日本新聞社

全國こぞつて演練の奉納

第十四回明治神宮國民錬成大會全國大會　十一月三日

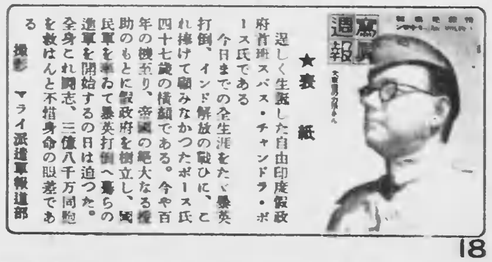
⇧神宮外苑競技場におけるラジオ體操

⇧名古屋市神宮公園の旗屋練兵場における國民防空競技會
撮影　中部日本新聞社

第十四回明治神宮國民錬成大會全國大會は十一月三日の明治の佳節を中心に、全國一万二千の市町村あげて決戦下皇事健民の華を咲かせて盛大に行はれた。老若男女が、防空訓練に、または職場運動に、それぞれ各種目に技を競ひ、武を練り、必勝の國魂と屠常錬磨の姿をそのまゝ明治神宮に奉納する敢闘ぶりを、全國各地に拾つてみた

⇧中央大會場より全國會場に呼びかける小泉厚生大臣

大日本婦人會仙臺支部本町通分會の竹槍操作訓練
撮影　河北新報社



寫眞週報

★哀　悼

遅しく生活した自由印度假政府首班スバス・チャンドラ・ボース氏である

今日までの全生涯をたゞ暴英打倒、インド解放の戦ひに、これ捧げて闘みなかつたボース氏四十七歳の横顔である。今や百年の機至り、帝國の絶大なる援助のもとに假政府を樹立し、國民軍を率ねて暴英打倒へ驀らの進軍を開始するの日は迫つた。全身これ闘志、二億八千万同胞を救はんと不惜身命の殉進である

撮影　マライ派遣軍報道部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

寫眞週報

一億戰鬪配置に

大阪貯蓄銀行

本店 大阪市東區伏見町三丁目

寫眞進呈

印刷局印刷發行

寫眞週報

申込所 全國各地官報販賣所 書店・新聞販賣店 寫眞材料店

賣上 一部 金十錢 送料 金壹錢 ▲代金は前金にて願ひます

印刷局

發行所 株式會社 寫眞通信社

本誌を回覽に

本誌は一部の購讀で數名の讀者に回覽すると共に利用下さい。

前線慰問にも

本誌を御慰問になつた出征將士の許にお送りになつたら如何でせう。送料は内地と同樣に金壹錢で御座います。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/